甲斐の金山から　平成16年7月15日　第29号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

好評を博した石原裕次郎展

～期間中・全国各地から来館～

４月29日から約１箇月間開催いたしました、第７回特別展「石原裕次郎写真展～下部温泉・在りし日の思い出～」。古くから湯治場として有名な下部温泉ですが、過去には井伏鱒二、三田村鳶魚、つげ義春ら、多くの文化人・著名人が来湯しています。中でも今回スポットを当てたのは今なお、人々を魅了し続けるスーパースター石原裕次郎。

かつて下部温泉で療養に励んだ際に撮影された数々の写真はいずれも、この下部の地だけに残された貴重なショットということもあり、この写真展を一目見たいと全国各地から多くの熱烈な裕次郎ファンが来館しました。

この特別展、開催期間中およそ500人以上の方々をお迎え出来ました。（関連記事４ページ）

地域活性化へ向けて

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長　谷　口　一　夫

文化施設の建設進む県下の市町村

県内市町村における合併プログラムが進む中、合併前に博物館・資料館・歴史公園などの文化施設、農業生産物の即売所といった施設の建設が盛んに行われています。これらは従前からの国・県・市町村の長期計画の事業もありますが、中には、合併前に当該地域の懸案事業を済ませておこうという意図的なものも伺えます。しかし地域の活性化につながるものという「地域住民の意識が付加されている」なら歓迎されるものばかりです。

地域の活性化は地域住民の意識次第

公共的な施設は永続的かつ継続性を持ち合わせるということが当然必要ですが、最初から人頼みの発想で民間やＮＰＯ法人に経営や事業を委ねてしまうというケースも見られます。やはり地域における施設は、地域の活性化に直結するものですから、地域住民が誇りが持て、かつ、こうした施設を軸に地域が活性化する方向へ住民の意識が結集できることが大切です。

そうした背景をもたない単体の施設をつくることは、当事者の努力の限界という壁に突き当たるケースに直面するでしょう。他と効果的に連携することで相乗効果を併せ持つ発想が必要です。

文化施設は「ハブ」つながりで相乗効果を

私は、山梨県立博物館（かいじあむ）の運営で「ハブ博物館」構想を提案してきました。これは「館だより」でも紹介してきましたので、御理解いただいている方も多いと思います。世界に航空路をもつ国際的な大空港は「ハブ空港」と呼ばれ、他の「ハブ空港」と結び合い相乗効果で利用者の利便性をあげています。これがハブの基本理念です。

これと同じ発想で山梨県立博物館は「一館完結」館でなく、自転車のスポークを束ねるハブ中核館として、県内各地の博物館・資料館・ホールなどの文化施設、また県内各地の観光や道の駅・ＪＡ売店・民間の施設などを包括しながら「歴史テーマにもとづく学習コース」を「それぞれの歴史テーマ」で設定することで、色々な学習ニーズを満たすことに直結します。歴史コースは幾通りもあり、来館者はそれぞれのコースに参加することで人の動きを活性化させる源につながるものとなるわけです。

各地域（市町村）では、そうした学習ニーズに応えられる受け皿を整備する、その意味での施設づくりを意図できるなら、単体で運営するのとは格段に違う環境づくりが出来るということです。

山梨市では全市博物館をうたい、地域の歴史、文化施設や観光施設をその構想の中で位置づけています。この発想は大事です。

「地域の歴史」を活用した地域づくり

また「魅力ある地域」づくりを「地域の歴史」を軸に構築すべきです。歴史は地域固有の財産ですから、これを上手に使わない手はないのです。すでに館だよりでも紹介してきました「湯之奥金山を世界遺産に」の運動は佐渡金山・陸奥金山・甲斐金山を包括した「黄金の国ジパング」（東国の金山遺跡と黄金文化）の世界遺産登録運動へと発展し、金山技術と産金がその後の日本社会にもたらした歴史を総合的に捉える方向で進んでいます。

県は「観光立県」、国は「観光立国」を目指しています

さて、いま山梨県は観光立県を目指した行政を展開しようとしています。実は国も観光立国を目指しているのです。1,600万人が出国し500万人が入国している状況ですが、これをもっとバランスがとれた数字にしたい考えです。

そのためには「観光の革新」－文化の磁力を

高めてーを掲げ、『観光を可能ならしめるような空港、港湾、鉄道、高速道路、ホテル、名所、博物館、劇場などの装置群を改善する必要がある。

地球規模での大交流時代の到来や文化交流の高まりに対応するためには、日本の「文化の磁力」をさらに充実させることが決め手になる。

そのためには交響楽団、劇団、大学、博物館、留学制度、アーティスト・イン・レジデンス制度などの文化資本の蓄積が重要となってくる。

旅行者のみならず文化人、芸術家、研究者が日本に集う条件を整備することも欠かせられない』としています。これはそのまま県や市町村レベルでも同じです。

新たな「観光商品」づくりとしての「黄金の国ジパング」や「富士川王国」構想

私が提案しているところの「黄金の国ジパング」構想や、山梨県立博物館のハブ博物館構想はいずれもこの方向で「先取りしている」ものです。下部町・中富町・身延町の合併で始まる「新・身延町」の観光の在り方にもつながるものです。

さらに、私は「富士川流域観光王国」または「富士川王国」の樹立を提案したいと思っています。町村合併というレベルの話ではなく、山梨県峡西・南地域全体の「観光商品」をつくる提案です。すでに山梨県と長野県を挟んだ企業20社余が核となり「八ヶ岳連邦国」構想が始まり、富士山と富士五湖でも観光の括りが検討されているようです。「富士川王国」など商工会や観光協会が軸になり観光戦略などが進められるとすばらしい「観光商品」が出来ると思います。上流は南アルプス市まで視野に入れると、広域的な観光マップが可能でしょう。

地域活性化で語り合いませんか？

こうした発想にはお金がかかりません、地域の皆様の知恵でいろいろな組み立てが可能です。

もし関心がある方は、いつでも金山博物館へお出かけください。そして語り合いませんか。地域が栄えるということは、地域の企業も栄えるということにつながるでしょう。持てる個人パワーを結集して、大きな力に変換することが、いま一番大事なことだと思います。

文部科学省が実施する２つの事業
地域づくり／子供の居場所づくり

「館だより」をお読みになっている皆様は、耳慣れた言葉かと思いますが、表題は去る６月22日に全国博物館館長会議（東京・一橋記念講堂）での文部科学省の行政報告の一部です。

地域づくりのため、国では「地域づくり支援室」を設置し

①新たな地域づくりのためにー外部の専門家の協力による新たな地域づくり施策の企画・立案ー

②望む情報を素早くー情報の共有及び発信機能の強化ー

③開かれた相談体制ー総合的な相談窓口の設置

④人と人をつなぐー子供が安心して過ごせ、人が行き交う地域づくりを支援ー

⑤地域の魅力を全国へー地域づくりへの取り組みの普及、奨励、広報ー

などをあげています。

また「子供の居場所づくり」では「学校・家庭・地域」が一つになって、子供たちを育む環境づくりを進めるというものです。その中で「何をどのように？」という説明がありますが、「地域の特性を活かし、様々な体験活動に取り組みましょう。地域の大人たちの積極的な協力を得て、地域特有の行事や、地域に根づいた文化財を活用したり、地域で盛んなスポーツ活動を拡大するなど、子供たちと町ぐるみで活動しましょう」とあります。ここまででお分かりになったでしょうか。

今、国レベルで支援しているこの取り組みは、すでに湯之奥金山博物館では実施しています。国の言う「子供の居場所づくり」というのは金山博物館における「こどもプラン」（子供プログラム）に相当し、積極的に取り組んでおり、多くの父兄や子供の参加をいただいています。

活　動　報　告

第７回特別展「石原裕次郎写真展」　４月29日(木)～６月13日(日)

古くからよく効く湯治場として、全国にその名を知られている下部温泉。今からおよそ40年前の昭和36年、この温泉町はいつもと違った賑わいを見せていました。理由はあのスーパースター石原裕次郎の来湯。

当時、下部ホテル社長の親類が石原さんと知り合いだったことから、スキー事故で足を骨折してしまった石原さんが療養のため、この下部温泉に約２箇月間滞在することとなったのです。その時、下部ホテル専属の大工さんだった町内在住の佐野常義さん（故人）が撮影した約150点の写真を展示公開したのがこの特別展でした。

これらの写真にはスーパースター石原裕次郎の素顔、家族との団欒、リハビリに励む姿が収められていました。テレビや映画とは違う和やかな表情が非常に多いのが特徴です。特に夫人と二人で写っている写真からは本当に仲睦まじい様子が拝見できました。

この特別展を開催するに当たっては、石原プロダクションの許可、そして現在の所有者で撮影者のご家族である佐野正彦さんの快諾をいただきました。

開催当初から好調な滑り出しを見せたこの特別展ですが、新聞やニュースで取上げられてからの反響はさらに大きく、嬉しいことに県内外から石原裕次郎ファンが御来館くださいました。

当初、５月30日までとしていた開催期間を、多くの方からの御希望で、２週間の期間延長をしたこともこれまでに例のないことでした。

NHK BS－2の番組に博物館友の会出演　４月11日(日)

現在ＮＨＫのＢＳ－２内で４月から新番組として『熱中時間』という番組が放送されています。番組は近未来に存在する“熱中人間研究所”で、時代の流れとともに人々の好奇心と熱意が希薄になってしまっているその時代から、現代へタイムスリップして、何かに熱中する人々を発掘にやってくるという設定です。その中で“熱中人”と名付けられた「この趣味なら一番」と自負する一般人にスポットを当てて、パーソナリティと質疑応答を交わすという内容で、この番組に湯之奥金山博物館友の会会員の方と小松美鈴学芸員が出演しました。

この日は「地球を掘る」という、鉱物・化石採集、そして砂金採集という、地中から何かを探し出すことがテーマで、砂金採集コーナーのメインゲストに大森直之氏、そしてスタジオでのミニ砂金掘り大会の実演に博物館友の会の方々に出演してもらいたいという番組制作側からの要請で、友の会から広瀬義朗氏、天野直人氏、中川清氏が出演しました。

この日は渋谷のスタジオに出向いての収録でしたが、収録中には司会者の薬丸裕英さんやコメンテーターの小倉優子さん、コージー富田さんらとのちょっとしたかけあいもあり、放送時間は長いものではありませんでしたが、出演に協力してくださった皆さんは、「貴重な体験をしました」と好意的な意見をくださいました。

この様子は４月25日の日曜日午後10時45分から１時間番組で放送されました。

左から２人目、司会の薬丸さん、３人目から大森、小松学芸員、中川、天野、広瀬の皆さん

リバーサイドパークに記念植樹

4月25日(日)

去る4月24日、湯之奥金山博物館は開館8年目を迎えることが出来ました。8年の歳月の間には多くの皆様にご来館いただき、また多くの皆様に御協力いただきました。

博物館専用駐車場も完成して間もないこの日、博物館のより一層の飛躍と、これまでと変わらぬ姿勢で、ご来館いただいたお客様を気持ちよくお迎え出来るようにという気持ちを込めて、ソメイヨシノ10本をリバーサイドパークに記念植樹しました。

植樹は谷口館長、友の会会長・高岡伸五氏、地元の中学生の手で行われました。

このソメイヨシノはまだまだ若木ですが、博物館のますますの繁栄を願って植えたこの木の成長に立ち遅れることなく、博物館も絶えず成長していきたいと関係者一同願わずにはいられません。きっと数年後には綺麗な花を咲かせ来館者の目を楽しませてくれることでしょう。

県内中学校校外学習

5月

毎年、4月～5月にかけての時期、県内各地の中学校で、自分達の地域や歴史を知ろうという授業の一環で校外学習や県内巡りなどが行われることが多くなってきました。当館も見学施設の一つとして今年も多くの学校から利用していただきました。

博物館日誌（8ページ）を御覧頂くと分かりますが、この1箇月間で校外学習に訪れた中学校は16校。多くの中学生が博物館を訪れてくれました。展示室で金山の歴史を勉強した後の、砂金採りの体験は、勉強とは言えみんな楽しそうでした。

平成15年度の有料入館者数は18,292人

平成15年度 博物館利用状況

年月	開館日数	区分	有料入館者 観覧	体験	共通	合計	無料入館者
15. 4	25	大人	503	131	182	816	7
		中学生	0	21	3	24	
		小学生	11	47	35	93	
		小計	514	199	220	933	
5	27	大人	671	253	295	1,219	23
		中学生	14	200	19	233	
		小学生	75	134	70	279	
		小計	760	587	384	1,731	
6	26	大人	665	296	376	1,337	38
		中学生	32	19	30	81	
		小学生	7	43	45	95	
		小計	704	358	451	1,513	
7	26	大人	769	301	341	1,411	15
		中学生	15	26	19	60	
		小学生	59	52	95	206	
		小計	843	379	455	1,677	
8	28	大人	910	939	878	2,727	73
		中学生	42	113	88	243	
		小学生	319	307	404	1,030	
		小計	1,271	1,359	1,370	4,000	
9	26	大人	676	335	380	1,391	44
		中学生	18	10	11	39	
		小学生	83	78	55	216	
		小計	777	423	446	1,646	
10	26	大人	688	335	396	1,419	19
		中学生	2	17	4	23	
		小学生	5	102	55	162	
		小計	695	454	455	1,604	
15. 11	26	大人	681	278	514	1,473	129
		中学生	3	7	8	18	
		小学生	36	55	77	168	
		小計	720	340	599	1,659	
12	23	大人	336	115	140	591	22
		中学生	4	0	5	9	
		小学生	3	16	19	38	
		小計	343	131	164	638	
16. 1	26	大人	414	179	159	752	1
		中学生	4	3	8	15	
		小学生	6	44	62	112	
		小計	424	226	229	879	
2	25	大人	354	100	194	648	37
		中学生	5	11	2	18	
		小学生	15	30	18	63	
		小計	374	141	214	729	
3	26	大人	622	197	290	1,109	12
		中学生	18	22	11	51	
		小学生	5	72	46	123	
		小計	645	291	347	1,283	
合計	310	大人	7,289	3,459	4,145	14,893	645
		中学生	157	449	208	814	
		小学生	624	980	981	2,585	
		小計	8,070	4,880	5,334	18,292	
						その他無料	225

私の研究ノート⑮

挽き臼廃棄の時期（条件）を考える

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館友の会会長　高　岡　伸　五

金鉱石の粉成（こなし）に使用された道具の一つに回転式の挽き臼がみられる。残された挽き臼は多くが使用後廃棄されたもので、使用痕がある道具の存在は、そこで鉱石を粉成した歴史事実を物語る貴重な資料となっている。

「湯之奥金山遺跡の研究」（1992）には、多くの挽き臼の実測データが詳細に報告されており、これらは鉱山技術史や金山衆の鉱山技術の解明につながる。

すでに周知のとおり、挽き臼には戦国時代の湯之奥型挽き臼、黒川型挽き臼、江戸時代のリンズ式定形型挽き臼が確認されているが、本稿では湯之奥型とリンズ式定形臼（リンズ式はＡ型・Ｂ型の２タイプに分けられている）の実測数値から「挽き臼廃棄の条件（時期）」について考察を試みることにした。

幸いリンズＡ型に比定される未完成の未使用の挽き臼が発掘調査で採集されており、この数値を一つの基準として捉え、臼の摩耗率を数値に表わすことで、廃棄の時期（条件）が推定できると考えた。

リンズＡは江戸期に出現した臼で、それに先行した湯之奥型のデータの平均は、直径38cm、厚さ15cm、重量40kg前後で、これに比べ湯之奥型はリンズＡより小振りであることが確認できる。つまり湯之奥型からリンズＡ型への移行は大形化といえる。大形化は同時に重量のアップにつながるもので、挽き臼の機能（能力）を増すためにとられた手段といえる。また、そこには大形にしなければならない理由が存在すると考えられるが、最大の理由は鉱石の硬度に関わるものとみられる。

リンズＢ型は平面体の形状をもつＡ型に比べると饅頭型で、数値的には湯之奥型に近く、むしろＡ型より古式で、湯之奥型→リンズＢ→リンズＡといった編年も今後の課題として検討に値する。

さて本題の廃棄の時期（条件）は、挽き臼としての機能が低下した時に発生するが、挽き臼の観察では「片減り」が大きな原因の一つと捉えられる。挽き臼には、１、２、３箇所に臼を駆動するのに必要な「柄」を差し込む柄溝とか柄穴があけられている。中には縦に柄溝を入れたケースも観察される。

片減りの様子は、柄溝の一点に集中するケースが目につく。これは「応力集中」といって「力」がかかる位置に減りが集中して、片減り化現象を起すことが要因として考えられる。

未使用のリンズＡは、中山金山Ａ－10テラスで発見されたもので、直径47cm、厚さ15.5cm、重量65kgである。この未使用のリンズＡに近い使用済み挽き臼２例と比較すると次の様子が伺える。

「湯之奥金山遺跡の研究」109頁の観察表29の挽き臼は、残存率50％、直径40cm、厚さ７～7.5cm、重量10.1kg（推定重量20.2kg）、片減り率3.3％とほぼ理想的な減り方だと観察できる。

また同上観察表92の挽き臼は、残存率41％、直径46cm、厚さ３～10cm、重量9.2kg（推定重量22.4kg）、片減り率35％と極端な片減りの姿が観察できる。

未使用リンズＡに比較すると、29は重量にして約３分の１まで使われたが、比較的に安定した状態で使用され、片減り率も3.3％と低いが重量が軽量になったための破棄が考えられ、一方92は、同様約３分の１まで使用したが、片減り率が35％と高く、軽量化と片減り率が破棄の原因ではないかと観察できる。

まだ実験的な試みであるが、表１はそれぞれ挽き臼の数値を一覧にしたものであるが、こうした視点からも鉱山技術の一端を垣間見ることが出来ると考えている。

	残存率(%)	重　量(kgW)		厚　さ(cm)	直　径(cm)	片減り率(%)(推定値)
		実　測　値	推　定　値			
湯之奥型(平均値)	35～100(62.3)	5.2～28.4(14.7)	14.8～41.0(24.2)	6～15.5(9.2)	32～41.5(38.4)	10～15.9(12.4)
リンズＡ型(平均値)	12～100(51.8)	1.7～36(12.3)	7.4～36(23.1)	3～12.5(7.3)	36～52(42)	3.3～35(14.3)
リンズＢ型(平均値)	35～90(70)	14～41(29.7)	40～45.5(41.8)	18～21(19)	32～44(36)	6.9～15.2(11.0)
穀白型(平均値)	42	3.9	9.3	5～8(6.5)	28	18.7

註）片減率については資料数　湯之奥型５コ、リンズＡ型68コ、リンズＢ型２コ、穀白型１コ、他は、湯之奥型７コ、リンズＡ型94コ、リンズＢ型３コ、穀白型１コであった。

表－１挽き臼（上臼）の観察表（最小値、最大値と平均値を示す）。

館からのお知らせ

夏休みプログラム参加者募集

湯之奥金山博物館では今年も夏休み２大プログラム、こども金山探険隊、砂金掘り大会を開催いたします。日程は以下のとおりです。参加希望の方は博物館まで御連絡ください。

「第４回こども金山探険」…金山の現地に自らの足で登り、そして金山で働く金山衆たちの作業を実体験するこの企画。回数重ねて４回目となった今年は、３ｇの金を使って最終的には刻印も打ち、甲州壱分判にまで仕上げようというもの。１日目は登山と粉成体験、２日目は灰吹作業と、２日間でセットのプログラムです。

期　日：平成16年７月31日㈯～８月１日㈰
参加費：3,500円（材料費として）
定　員：20人（小学生～中学生まで）
※保護者同伴でのご参加をお願いいたします。
※雨天決行（ただし雨天プログラムに変更あり）

「第４回砂金掘り大会」…夏恒例の湯之奥金山博物館杯・砂金掘り大会。今年は隣接博物館専用駐車場が会場です。大会種目は３部門。各部門上位３人までメダルと表彰状を授与いたします。そして３部門合わせて最も成績が良かった総合優勝者にはトロフィーを授与。只今参加者募集中です。今年の栄冠を勝ち取るのはあなたかもしれません。

期日：平成16年８月７日㈯　※雨天順延
午前９時～午後12時30分迄
（受付は午前８時30分から）
揚所：湯之奥金山博物館イベント広場
（専用駐車場）
種目：ジュニアの部（小学生～中学生）
男女初心者の部（高校生以上の男女）
男女ベテランの部（男女年齢制限なし）

平成16年度公開講座のお知らせ

今年度の公開講座の講師と内容が決定いたしました。今年のテーマは“『産金技術と金』がもたらしたもの～世界遺産登録へ向けた『黄金の国ジパング』の深層を探る～”として、以下の先生方にご講演をいただきます。多くの皆様のご聴講をお待ちしております。

会場：湯之奥金山博物館多目的ホール
時間：午後２時～午後４時まで（聴講無料）
※気象条件や講師の都合により日程が変更される場合がありますので、その都度博物館へお問い合わせのうえ、ご来館ください。また、講師の都合により、演題が変更されることもあります。

『産金技術と金』がもたらしたもの

～ 世界遺産登録へ向けた『黄金の国ジパング』の深層を探る ～

第36回	10月 9日㈯ 自然遺産・文化遺産の保護と活用－世界遺産のあり方を考える－ 千葉大学名誉教授　工学博士　㈶日本自然保護協会理事長　田　畑　貞　寿（東京）
第37回	11月13日㈯ 江戸幕府の天領政策と鉱山経営　－金銀山は天下のやま－ 法政大学名誉教授　文学博士　村　上　　直（川崎）
第38回	12月11日㈯ 日本の大開発時代を考える　－石見・佐渡・甲斐、人と文明の交流－ 筑波大学名誉教授　文学博士　田　中　圭　一（佐渡）
第39回	1月22日㈯ 武田信玄の駿河進攻と甲斐・駿河の金山 静岡大学教育学部教授　文学博士　小和田　哲　男（静岡）
第40回	2月 5日㈯ 産業遺産としての日本の金銀山　－石見銀山の世界遺産登録をめぐって－ 独立行政法人奈良文化財研究所主任研究官・学術博士　村　上　　隆（奈良）

常設展示室に展示品を追加

６月半ばから、甲州壱分金、一朱金、二朱金３点が新たに展示ケースに加わっています。これは甲州金の中でも「甲安中金」と分類されるもので、この時代の甲州金は当館の展示に唯一欠けていたものでしたが、この３点が加わり、現在公開中の奥山コレクションと合わせてご覧頂くと、甲州金の制作時期の編年を網羅できます。

また、「博物館だより」前号でお知らせしたとおり、去る４月13日、㈱ダイアート三枝から寄贈いただいたプラチナ鉱石と菱刈金山の鉱石に対して、谷口館長から三枝社長に特別感謝状が手渡されました。これを受けて展示室の鉱石コーナーには、プラチナ鉱石を追加展示しています。新たに加わったこのこれらの展示品、御来館の際にはどうぞ合わせてご覧になってください。

贈呈式の様子

博物館日誌（平成16年４月～６月）

４月

- １(木) るるぶ取材
- ５(月) 体験室改修
- ６(火) 博物館専用駐車場一般利用開始
- 13(火) ダイアート三枝・鉱石寄贈感謝状授与式
- 18(日) よってけし祭り　於しもべ道の駅で出張砂金採り
- 20(火) 山梨県博物館協会総会　於風土記の丘
- 22(木) 八田中学校、櫛形中学校　ふるさと県内めぐり
- 23(金) 多目的ホール照明工事
- 24(土) 竜王北中学校、笛吹中学校　校外学習
- 27(火) 開館８年目・ソメイヨシノ記念植樹
- 29(木) 角川書店取材
- 第７回特別展「石原裕次郎写真展」開催～６月13日迄

５月

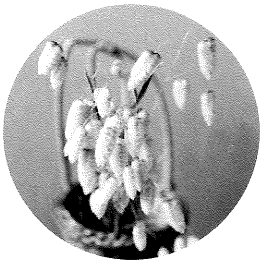
- １(土) 第21回親子映画鑑賞会
- ５(水) 子供の日・臨時開館
- ６(木) ＵＴＹ「ニュースの星」特別展取材・放送
- 14(金) 白根巨摩中学校、増穂中学校　県内めぐり学習
- 15(土) 下部隠し湯祭り～16日
- 18(火) 押原中学校、若草中学校、御勅使中学校　県内めぐり学習
- 19(水) 臨時開館、若草中学校県内研修
- 20(木) 浅川中学校校外学習
- 25(火) 東桂中学校、一宮中学校　校外学習
- 28(金) 敷島中学校、石和中学校県内めぐり
- ハブ博物館ネットワーク会議、於ポールラッシュ記念館
- 29(土) 雑誌ビックトゥモロウ取材

６月

- １(火) 玉穂中学校、県内めぐり
- ８(火) 町内老人クラブ連合会ゲートボール大会
- 12(土) 一色ほたる祭り
- 13(日) 第７回特別展終了
- 14(月) 常設展示に甲州金３点（甲安中金）追加展示
- 20(日) 下部小学校４年生、親子レクリエーション
- 23(金) 『理科教室』（記事掲載）発売
- 26(土) 第22回親子映画観賞会

編集後記

右の写真はコバンソウ、別名タワラムギという植物。荒地や道端に生えるイネ科の一年草で、明治時代にヨーロッパから入ってきた帰化植物。まるで稲のような穂をつけるのですが、面白いのはその穂の形と色。楕円形で、色も初めのうちは緑色ですが、熟してくると黄緑色となり、最後には黄金色ともいえる黄色になります。



コバンソウと言われるように、小判にも見えるし俵にも見えるその特徴をよく捉えています。

博物館に甲州金なんかを展示しているので、つい“小判”とか“金貨”という言葉に反応してしまい、ちょっと紹介してみたわけです。

さて、夏休みももう間近。予定をしっかりたてて有意義に過ごしたいですね。

博物館だより　第29号　平成16年７月15日

発行　〒409-2947 甲斐黄金村・湯之奥金山博物館
山梨県西八代郡下部町上之平1787番地先
ＴＥＬ　0556（36）0015
ＦＡＸ　0556（36）0003

博物館ホームページアドレス http://www2.town.shimobe.yamanashi.jp/kinzan/　博物館Ｅメールアドレス kinzan@town.shimobe.yamanashi.jp